

ユーザーズ・マニュアル

# Rev PLATE-140

**ARTURIA**<sup>®</sup>  
YOUR EXPERIENCE • YOUR SOUND

# スペシャル・サンクス

---

## ディレクション

---

Frederic Brun Kevin MOLCARD

---

## 開発

---

Samuel Limier	Raynald Dantigny	Yann Burrer	Pierre-Lin Laneyrie
Kevin Arcas	Alexandre Adam	Corentin Comte	Mathieu Nocenti
Simon Conan	Baptiste Aubry	Loris De Marco	Marie Pauli
Alessandro De Cecco	Timothée Behety	Geoffrey Gormond	

---

## マニュアル

---

Fernando Manuel Rodrigues (author)	Leo Der Stepanians	Minoru Koike	
Camille Dalemans	Randy Lee	Charlotte Metais	
	Holger Steinbrink	Jose Rendon	

---

## サウンド・デザイン

---

Jean-Michel Blanchet Victor Morello

---

## デザイン

---

Martin DUTASTA	Clément BASTIAT	Shaun ELWOOD	Morgan PERRIER
----------------	-----------------	--------------	----------------

---

## テストイング

---

Florian Marin

---

## ベータ・テストイング

---

Gustavo Bravetti	Marco Correia (Koshdukai)	Mat Herbert	Bernd Waldstädt
Andrew Capon	Raphael Cuevas	Jay Janssen	George Ware
Chuck Capsis	Ben Eggehorn	Fernando Manuel Rodrigues	Chuck Zwicky
Jeffrey Cecil	Tony Flying Squirrel	Terry Marsden	Randy Lee

© ARTURIA SA – 2019 – All rights reserved.  
26 avenue Jean Kuntzmann  
38330 Montbonnot  
FRANCE  
[www.arturia.com](http://www.arturia.com)

本マニュアルの情報は予告なく変更される場合があり、それについてArturiaは何ら責任を負いません。許諾契約もしくは秘密保持契約に記載の諸条項により、本マニュアルで説明されているソフトウェアを供給します。ソフトウェア使用許諾契約には合法的使用の条件が規定されています。本製品を購入されたお客様の個人的な使用以外の目的で本マニュアルの一部、または全部をArturia S.A.の明確な書面による許可なく再配布することはできません。

本マニュアルに記載の製品名、ロゴ、企業名はそれぞれの所有者の商標または登録商標です。

**Product version: 1.0**

**Revision date: 23 December 2019**

# Rev Plate-140をお買い上げいただきありがとうございます！

本マニュアルでは、Rev Plate-140の各種機能と使用方法をご紹介します。

できるだけ早めに製品登録をお願いいたします！ Rev Plate-140の購入時にシリアルナンバーとアンロックコードをEメールでご案内しております。製品登録時にこれらが必要となります。

## 使用上のご注意

### 仕様変更について：

本マニュアルに記載の各種情報は、本マニュアル制作の時点では正確なものです。改良等のために仕様を予告なく変更することがあります。

### 重要：

本ソフトウェアは、アンプやヘッドフォン、スピーカーで使用された際に、聴覚障害を起こすほどの大音量に設定できる場合があります。そのような大音量や不快に感じられるほどの音量で本ソフトウェアを長時間使用しないでください。

難聴などの聴力低下や耳鳴りなどが生じた場合は、直ちに医師の診断を受けてください。

# はじめに

この度はArturia Rev Plate-140をお買い上げいただき誠にありがとうございます！

1990年代後半以来、Arturiaは1960年代から1980年代にかけてのアナログシンセサイザーの名機を最先端のソフトウェアエミュレーションで再現したことでミュージシャンやレビュワーから高い支持を集めています。2004年発表のOriginや、2010年の発表のモジュラーシステムを再現したModular Vから、Matrix V (2015)、Synclavier V (2016)、Buchla Easel V、DX7 V (2018)、そして最新のSynthi V、CZ V、Mellotron Vまで、数々の名機を再現してきました。また最近では、クリエイティブなムード溢れるGUIで複数のシンセエンジン駆使して音作りができるArturia初のオリジナル・ソフトウェアシンセサイザーPigmentsも発表しました。

シンセサイザーや音の良さに向けるArturiaの情熱で、「違いのわかるミュージシャン」に最適なソフトウェアインストゥルメントやプロオーディオ製品を開発してきました。

Arturiaはまた、オーディオ関連の製品ラインナップも拡充してきています。2017年には独自のDiscretePRO®マイクプリアンプを2系統、最高級AD/DAコンバータを搭載したプロのスタジオオウリティのオーディオインターフェイスAudioFuseを発表しました。翌2018年にはAudioFuse StudioとAudioFuse 8Preのシリーズ機種を発表しました。他にもエフェクトプラグインを多数開発しています。2018年には1973-Pre、TridA-Pre、V76-Preの3機種をバンドルしたArturia初のエフェクトバンドル、3 PreAmps You'll Actually Useをリリースしました。

このシリーズはコンプレッサーのプラグインを集めたバンドルやディレイのプラグインを集めたバンドルと続いています。今回は、リバーブをテーマにしたプラグインバンドルで、エフェクトプラグインをリードするArturiaのポジションをより確固としたものにします。

# もくじ

1. ようこそ .....	2
1.1. リバーブとは？ .....	2
1.2. プレートリバーブとは？ .....	3
1.3. プレートリバーブはどこで使われていたのか？ .....	4
2. アクティベーションと最初の設定 .....	5
2.1. Rev Plate-140のライセンスをアクティベートする .....	5
2.1.1. The Arturia Software Center (ASC) .....	5
2.2. プラグインとして動作 .....	6
3. REV PLATE-140オーバービュー .....	7
3.1. Rev Plate-140プラグイン .....	7
3.2. Rev Plate-140のシグナルフロー .....	8
3.3. Rev Plate-140を操作してみる .....	9
3.3.1. リバーブの基本 .....	9
3.3.2. アドバンストパネルを使う .....	10
4. REV PLATE-140コントロールパネル .....	11
4.1. チャンネルコンフィギュレーション (モノ/ステレオ) .....	11
4.2. メインコントロールパネル .....	12
4.2.1. Power (スイッチ) .....	12
4.2.2. Drive .....	13
4.2.3. Model .....	14
4.2.4. Decay .....	14
4.2.5. Blend .....	15
4.2.6. Width (ステレオ幅の調節) .....	16
4.3. アドバンストモード・コントロールパネル .....	16
4.3.1. Pre-Delay .....	16
4.3.2. HP Filter .....	16
4.3.3. Modulation .....	17
4.3.4. Post Equalizer .....	17
5. ユーザーインターフェイス .....	18
5.1. アッパーツールバー .....	18
5.1.1. Save Preset .....	18
5.1.2. Save Preset As... .....	19
5.1.3. Import... .....	19
5.1.4. Export Menu .....	19
5.1.5. Resize Window (リサイズウィンドウ) .....	19
5.1.6. Help .....	20
5.1.7. プリセットの選択 .....	20
5.2. アドバンストモードボタン (二重矢印) .....	20
5.3. ロウツールバー .....	21
5.3.1. Panic .....	21
5.3.2. Undo .....	21
5.3.3. History .....	21
5.3.4. Redo .....	21
5.3.5. Bypass .....	22
5.3.6. CPU meter .....	22
5.4. プリセットブラウザ .....	22
5.5. パラメーターの微調整 .....	23
5.6. パラメーターのリセット .....	23
6. ソフトウェア・ライセンス契約 .....	24

# 1. ようこそ

## 1.1. リバースとは？

特に意識していなくても、リバース (残響音) を体験したことがないという人はいないかと思いますが、音が生じたときに部屋などの空間で発生した反射音を総称してリバースといいます。その残響音を聴いて、音が鳴っている空間が意識できたり、場合によっては特定の空間の音を特徴付けている要素にもなります。

特殊な環境でない限り、リバースが一切ない音を聴くことは不可能で、リバースが欲しくないとしても必ず付いて回るものがリバースです。ほとんどの場合、リバースは音を聴きやすくしたり空間的な広がりを感じさせてくれる良いものとして受け止められますが、何かを録音したいという場合は、その限りではありません。

一般的にレコーディングスタジオでは多少の反射音は生じますが、録音する音の特性に影響を及ぼすほどの反射音が生じないように録音ブースなどの空間音響を調整しています。そのため、空間音響の調整は非常に重要なテーマとなります。

録音時ではなく、録音後にアンビエンス (残響音) を付け足すこともよくあります。そこで便利なのが、人工的にリバースを付け足すことができる装置、つまりリバースエフェクトです。今日では洗練された技術とアルゴリズムでどんな空間音響も再現できるデバイスが豊富にあります。ですが、それはつい最近のことです。以前は、人工的なアンビエンスを作るのに、エンジニアがスプリングや大きな鉄製のプレートに向き合うしかありませんでした。こうして得られる"アンビエンス"は、現実の部屋や空間の特徴を再現したのではなく、単に音に生き生きとした感じや空間的な広がり感を付け足すためだけのものでした。

そのため、当時は現実にある空間などのリバースを再現する代わりに、"特徴的なリバースサウンド"を作り出していました。そうしたリバース音がミュージシャンはもとよりリスナーにも非常に好まれ、それはどんな空間の残響特性も再現できる現代でも変わらず、そうした人工的ながらも特徴のあるサウンドが今も好まれることがあります。



Rev Plate-140のメインリバースコントロール

## 1.2. プレートリバーブとは？

歴史的に、機械式リバーブユニットにはプレート式とプリング式の2種類があります。

プレートリバーブは音楽産業で最もよく使われたタイプです。最初の (かつ最重要の) プレートリバーブを開発したのが、ドイツのEMT社です。その最初の製品がEMT 140 Reverberation Unitという製品でした。そのサウンドはスプリングリバーブよりもスムーズでよりナチュラルで、しかもエコーチェンバー (エコー室) のような専用スペースが不要でした。

プレートリバーブは名前の通り、比較的大きなサイズ (EMT 140では畳1枚ほどの大きさ) の金属製プレートがケースの中でよく振動するように吊り下げているという構造になっています。

プレートには音の電気信号を振動に変換するトランスデューサーが取り付けられており、そこからの刺激を受けてプレートが振動を始め、音の信号に合わせて振動します。プレートの別の位置にはコンタクトマイクが2つ取り付けられており、プレートの振動が残響音に変換されます。マイクが2つですので、ステレオリバーブとして使用できます。

プレートリバーブによる残響音は、現実の空間の残響音ほどナチュラルではありませんが、スプリングリバーブよりはナチュラルです。その程度のナチュラルさですが、音に密度やアンビエンスを十分に付け足すことができます。さらに、非常に場所を取るエコーチェンバーを施工するのが非現実的にハードルが高いということも重なって、プレートリバーブはデジタルリバーブが"降臨"するまで、スタジオ機器の王者として君臨していました。

プレートリバーブには音質面にも特徴があります。総体的に言えば、プレートリバーブは音が密で光沢感があります。

### 1.3. プレートリバーブはどこで使われていたのか？

プレートリバーブは残響音を簡単に作れる装置でした。その登場以来、1970年代末まではスタジオの王者でした。デジタルリバーブへの"王朝交代"が始まると、プレートをシミュレートしたアルゴリズムがデジタルリバーブに入るようになりました。このことは、プレートリバーブの音がどれほど特徴的かということを雄弁に物語っています。

それでも、プレートで得られるリバーブ音は"ナチュラル"とは言い切れないものがあります。金属製プレートが吊り下げられていて、トランスデューサーによってプレートがたわむように振動をする仕組みです。振動がプレート中に広がることで比較的濃密なリバーブ音が生じ、その音色は光沢感のある金属的なものです。

他にもプレートリバーブには音色面での特徴があります。プレート自体は長方形で、振動波は同心円状に広がりますので、振動波はプレートの両端へ同時に到達しません。ですが振動波がプレートのエッジに達すると、振動波が反対側へ跳ね返されます。そのためリバーブ音が減衰していくにつれて、リバーブ音の密度が増してくるのです。この段階に達するのは非常に早く、それ以後は密度の高いリバーブ音になります。

プレートやスプリングリバーブは今では"オールドテクノロジー"と見られていますが、今でもまだまだ現役です。プレートリバーブは極めて簡単に使えて、しかも音が特徴的で他に似たものがないため、スタジオ機器の中で独自の地位を占めています。

プレートリバーブはポップミュージック界では今も人気で、特にボーカル用リバーブとしては、特定の空間を思わせるようなことないため、よく使われています。ドラムもそうでしょう。特にパワフルなロックドラムサウンドの音作りには、質の高いプレートリバーブが大きく貢献します。

シンセもギターも、プレートリバーブ特有の密度の高さが功を奏する場合があります。もっとも、シンセには最初から内蔵エフェクトのリバーブがかかっていることが多いのですが。

また、プレートリバーブはサウンドに密度を高めるという意味で、他のアルゴリズムのリバーブと一緒に使うのも効果的です。



Rev Plate-140の全コントロールを表示した状態



## 2. アクティベーションと最初の設定

Arturia Rev Plate-140プラグインは、次の環境のパソコン上で動作します：

Windows 7以降、macOS 10.10以降

Rev Plate-140はAudio Unit, AAX, VST2, VST3 (64ビットのみ) の各プラグインフォーマットで使用できます。



### 2.1. Rev Plate-140のライセンスをアクティベートする

ソフトウェアをインストールしましたら、次のステップはライセンスをアクティベートします。そうすることで、ソフトウェアを無制限に使用できます。

アクティベーション作業はArturia Software Centerというアプリケーションで行います。

#### 2.1.1. The Arturia Software Center (ASC)

ASCのインストールがまだでしたら、こちらのウェブページから入手できます：

<https://www.arturia.com/support/downloads&manuals>

Arturia Software Centerはページのトップにあります。お使いのシステム(macOSまたはWindows) に合ったバージョンのインストーラーをダウンロードしてください。

ダウンロードが完了しましたら、インストーラーを起動して表示される指示に従ってインストール作業を進めてください。その後、以下の作業をします：

- Arturia Software Center (ASC) を起動します。
- お持ちのArturiaアカウントでログインします。
- ASCの画面を下にスクロールしてMy Productsを表示させます。
- Activateボタンをクリックします。

これで完了です！

## 2.2. プラグインとして動作

Rev Plate-140はLive, Logic, Cuybase, Pro Toolsなど主要なデジタルオーディオワークステーション (DAW) で使用できます。ハードウェアとは異なり、複数のRev Plate-140を同時使用できます。また、Rev Plate-140にはハードウェアにはない大きなメリットが2つあります：

- Rev Plate-140のパラメーターをDAWのオートメーション機能で自動制御できます。
- Rev Plate-140の各パラメーターの設定はDAWのプロジェクトの一部としてセーブされ、次回そのプロジェクトを開いた時にはセーブした時点と全く変わらない設定が再現されます。



Rev Plate-140のメインコントロール

## 3. REV PLATE-140オーバービュー

### 3.1. Rev Plate-140プラグイン

Rev Plate-140は特定のプレートリバーブを再現したレプリカというわけではありません。確かに有名な大定番のプレートリバーブからインスパイアされていますが、Arturia独自のチューニングもしています(もちろん追加機能もあります)。



Arturia Rev Plate-140のメインとアドバンスパネル

それでも、オリジナルのプレートリバーブのようなシンプルさを損なわないようになっています。ユーザーにArturia製品を楽しんでお使いいただけるよう、何事もできるだけシンプルにするのがArturiaのポリシーです。

他のArturia製エフェクトプラグインと同じく、GUI(グラフィカルユーザーインターフェイス)にはメインとアドバンスという2つのパネルがあります。

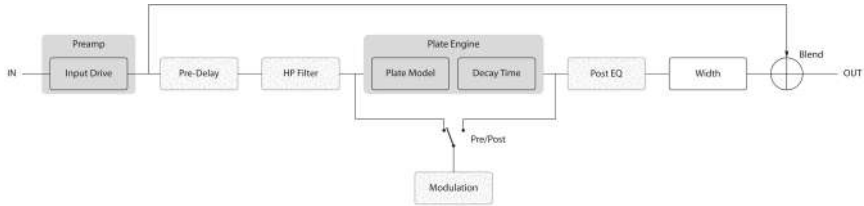
メインパネルは"トラディショナル"なプレートリバーブと同様のパラメーターで、追加機能は最小限に抑えてあります。ここでプレートのモデルを選択することができます。

その他の追加機能は、メインパネルの下に開くアドバンスパネルに入っています。アドバンスパネルでは、Pre-DelayやHP Filter、Modulationセクション、Post Equalizer(High/Lowシェルフバンド)が使用できます。アドバンスパネルのパラメーターはオリジナルのハードウェアにはないものですが、現代のトラックメイキングではどれも非常に便利なものですので追加しました。

各パネルの各パラメーターにつきましては[コントロールパネル \[p.11\]](#)のチャプターでご紹介します。ここからは、どんな音がするのかをチェックする時間です。では行きましょう！

## 3.2. Rev Plate-140のシグナルフロー

Rev Plate-140にはハードウェアのプレートリバーブではあまり見られない機能がいくつかあり、便利で多彩に使えるプラグインに仕上げてあります。シグナルフローは次の通りです：



プラグインに信号が入ると、最初にチューブプリアンプサチュレーション回路に入り、その次に2つのオーディオ信号に分かれます：

1. リバーブ出力の最終段の寸前にあるミキサーに直行するドライ（リバーブがかかっていない）信号
2. リバーブがかかる信号

リバーブがかかる信号は次にPre DelayとHP Filterに送られます。この2セクションのパラメーターはアドバンスパネルにあります。

次に信号はModulation（コーラス）モジュールに送られます（Preにセットした場合）。この信号ルートはモジュレーションがオンの場合にのみ有効となります。

その後信号はプレートリバーブエンジンに入ります。ここがRev Plate-140の心臓部で、オーディオ信号は選択したプレートモデルでリバーブがかかり、リバーブの長さはDecay Timeで調節できます。

次に、モジュレーションモジュールがオンでPostにセットされている場合、オーディオ信号はこのモジュールに送られて、コーラスが加わります。この信号ルートはモジュレーションがオンの場合にのみ有効となります。

その次はEQモジュールに信号が入ります。ここでリバーブ音にEQをかけることができます。

リバーブ信号がステレオの場合、ステレオ間の広がり調節するWidthコントロールに入ります。Widthコントロールは、ステレオトラックで使用している場合にのみ表示されます。

最後にBlendノブでリバーブ音とドライ音のミックスバランスを調節します。

以上がRev Plate-140のシグナルフローの全容です。最初は少々難しく感じられるかも知れませんが、使っていくうちに理解が深まってこのプラグインでどんなことができるのかがわかってくるはずです。

## 3.3. Rev Plate-140を操作してみる

### 3.3.1. リバーブの基本

Rev Plate-140でできることをダイジェスト的に理解するために、次の操作を行ってみてください：

- ステレオのクリップをお使いのDAWのオーディオトラックに立ち上げます（ドラムがボーカルトラックがここでは適しています。また、エフェクトがかかっていないドライな音がベターです）。
- 上記のトラックにRev Plate-140をインサートエフェクトとしてロードし、Rev Plate-140の画面を開きます。
- 画面を開くとデフォルトのプリセットがロードされます。この時、Rev Plate-140の全パラメーターは初期状態にセットされています。
- トラックを再生します。この時点でリバーブがかかります。リバーブ量はBlendノブで調節できます。このノブはDry/Wetノブです。デフォルト時、ノブはセンターポジションにあり、その時の値は0.500です。これは、リバーブ音とドライ音が50%ずつの状態です。ノブを右いっぱいに戻すとリバーブ音100%になり、左いっぱいに戻すとドライ音100%になります。
- 次はもう少し重めの操作をしてRev Plate-140のメイン機能をチェックしてみましょう。最初はDriveノブを上げてみましょう。すると音が徐々に歪んでいきます。この歪みはビンテージのチューブプリアンプをエミュレートしたものです。歪みが深くなる分、全体音量が下がりますので、聴感上の音量は変化しません。
- トラックを再生しながら、プレートモデルを切り替えてみましょう。モデルは3タイプあり、それぞれに特徴があります。オリジナルのハードウェアをモデリングしたものはデフォルト時のClassic EMTです。
- 他にはDecay Timeのコントロールがあります。ディケイを長くすると、リバーブ音が長く減衰します。ディケイのデフォルト設定は選択したモデルによって変わりますが、お好みで調節できます。Decay Timeのディスプレイの下にある“-”と“+”ボタンでディケイを調節できます。このボタンを操作すると、リバーブ音の長さが変化します。
- WidthコントロールはRev Plate-140をステレオトラック（またはMono-to-Stereoトラック：Pro Toolsの場合）に使用した場合にのみ表示されます。Widthコントロールはリバーブ音にのみ適用され、ドライ音は何も変化しません。デフォルト時は最大値にセットされ、その場合ステレオイメージは入力音と同じ状態です。Widthノブを左へ回しながら、リバーブ音のステレオイメージに注意してください。リバーブ音がほとんどモノになるまで徐々に“縮んで”いきます。この効果はリバーブ音にしかかかりませんので、Blendノブで100%ウェットにすると変化が分かりやすくなります。このように、ステレオ信号でリバーブをモノに近い状態にすることができます。Widthコントロールでの実験はヘッドフォンでモニターするとより分かりやすくなります。



Rev Plate-140をドラムトラックに使用

### 3.3.2. アドバンストパネルを使う

ここまでで、Rev Plate-140の雰囲気がかめたとお思いますので、もう少しディープなところへ行ってみましょう：

- 下向きの二重矢印をクリックしてアドバンストパネルを開きます。
- Pre-Delayを使ってみましょう。デフォルト設定では、ノブは0.00msの位置（左いっぱい）になっています。このノブを上げていくとウェット（リバーブ音）にディレイがかかり、リバーブ音が原音から時間的に離れていくように聴こえます。このノブを少し上げることで、リバーブの奥行き感や広がり感、豊かさが加わります。
- 次はHP Filterです。HP（ハイパス）という名前の通り、リバーブセクションに入る前の信号から低音域の成分をカットする役割があります。リバーブに低音域が多く含まれすぎていると、元の信号をマスキングし過ぎる傾向がありなど、リバーブにとってはあまり好都合ではありません。そのため低音域をある程度カットしておくことが望ましく、そのような場合にはHP Filterが便利です。
- HP Filterの次はModulationセクションです。ここではリバーブ信号に薄めのコーラスをかけて、リバーブ音にさらなる奥行き感をプラスできます。ぜひお試しください。ギターやシンセのパッド系音色と、このセクションのコーラスは相性が良いかと思います。また、Pre/Postスイッチでコーラスがかかる位置をリバーブの前または後から選べます。
- 最後はPost Equalizerです。これは2バンドEQでシェルフバンドですので、ローシェルフではFreqノブで設定したEQポイント（周波数）以下の帯域をGainノブでブースト/カットし、ハイシェルフではEQポイント以上の帯域をブースト/カットします。EQのロールオフ（フィルターの傾き）は非常に緩やかなものになっています。2バンドのFreqノブで全可聴帯域をカバーしていますが、両者で重なっている帯域があり、そこでは非常に柔軟なイコライジングができます（ローシェルフは20Hz～2kHz、ハイシェルフは200Hz～20kHz）。このEQで、リバーブ音の音質を柔軟に加工できます。感覚を掴むことも兼ねて、2つのバンド帯域を交差させるなど、極端なセッティングを色々試してみてください。

## 4. REV PLATE-140コントロールパネル

Rev Plate-140プラグインは、DAWのモノまたはステレオのオーディオトラックで使用できます。

モノのオーディオトラックにRev Plate-140を立ち上げると、自動的にモノ動作の設定になります。ステレオトラックに立ち上げた場合は、自動的にステレオ動作の設定になります。また、Pro ToolsのようにMono-to-StereoとしてRev Plate-140を立ち上げた場合もステレオ動作になります。

**i** 必ずしもすべてのDAWでモノトラックが使用できるわけではありませんので、その場合はRev Plate-140をモノ動作では使用できません。

### 4.1. チャンネルコンフィギュレーション (モノ/ステレオ)

モノとステレオ動作での違いは、ステレオの場合はWidthノブが表示され、モノの場合はWidthノブが表示されません。

Widthノブはステレオの広がり調節します。モノトラックに立ち上げた場合、元々モノですからステレオイメージがありませんので、このパラメーターは表示されません。



Rev Plate-140をモノトラックに立ち上げた状態。Blendノブの上为空いていてWidthノブがありません。

## 4.2. メインコントロールパネル

Rev Plate-140のGUIは、オリジナルのプレートリバーブ自体にそれほどパラメーターがありませんので非常にシンプルです。プレートリバーブのパラメーターはメインコントロールパネルに表示されます。このパネルはRev Plate-140を開いた時に表示されるパネルです。

それらに加え、Arturiaで追加した機能がいくつかありますが、それらはオリジナルのハードウェアが登場した頃にはなかったものです。そのパラメーターはもう1つのパネルのアドバンスモード・コントロールパネルにあり、アッパーツールバーの二重矢印ボタン（アドバンスモードボタン）をクリックすると開きます。

他のArturia製プラグインと同様、Rev Plate-140のGUIにもアッパーツールバーとローツールバーがあります。ローツールバーはArturiaプラグインを使用する上で非常に重要なもので、そこにアンドゥやリドゥ、エディットの履歴表示、プラグインのバイパス（バイパスはメインコントロールパネルにもあります）、CPU消費量メーターといった機能が入っています。

もちろん、アッパーツールバーも非常に重要で、メインメニューにアクセスしたり、プリセットやバンクのロードやセーブの他、プリセット選択や使用中のプリセット名表示といった機能があります。アッパー/ローツールバーの各種機能の詳細は、[ユーザーインターフェイス](#) [p.18]のチャプターでご紹介します。

ここからは各パラメーターが何をするものなのかや、その可動範囲、パラメーターの値と動作などについてご紹介します。



Rev Plate-140メインコントロールパネル

パネル上のコントロール（ノブやボタン）をクリックしたり、その上にマウスオーバーすると、ローツールバーの左側にそのパラメーター名が表示されます。また、コントロールの右側に小さなポップアップボックスが表示され、その中にその時のパラメーターの値が表示されます。ここに表示される値はコントロールを動かすとそれに応じて変化します。また、表示される値のタイプはパラメーターによっては常に同じタイプとは限りません。

では、メインコントロールパネルの各パラメーターを見ていきましょう。

### 4.2.1. Power (スイッチ)

このスイッチをオフにすると、プラグインがバイパスモードになります。デフォルト設定はオンで、この場合プラグインがオンになります。





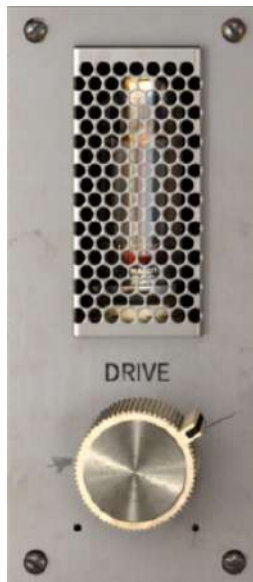
パワースイッチ

このスイッチの動作はロワーツールバーのBypassボタンと同じです。パワースイッチまたはBypassボタンのどちらを使ってもバイパスモードに入った時点で、プラグイン全体の表示色が暗くなり、"Bypassed"の表示が一瞬表示されます。


### 4.2.2. Drive

Driveノブは入力音にチューブ風のサチュレーション（歪み）を加えるパラメーターです。入力音のプリアンプのように動作し、ドライブスとリバーブスの両方の信号にかかります。

このパラメーターはビンテージのTelefunken製プリアンプを参考に開発したものです。サチュレーションが増大していくにつれ、ボリュームゲインが下がっていきますので、聴感上の全体音量は変化しません。



Rev Plate-140 Driveノブ

 Driveノブは入力音に歪みを加えるためのものです。歪みが不要な場合はDriveノブを左いっぱいに向けておきます。それでもリバーブはかかります。

### 4.2.3. Model

Modelセクターで3種類のプレート"モデル"から1つを選択できます。1のところには"Punchy"と読める書き込みがありますが、その名の通り、ローミッドの帯域を厚くしたパンチのあるモデルです。2のところには"Classic EMT"と書いてあります。このモデルはPost EQをデフォルト設定にした状態でEMT 140プレートリバーブと同様の特性になります。3のところには"Modern"と読める書き込みがあります。これもその名の通り、高域を強調したモダンな特性のモデルです。

### 4.2.4. Decay

このエリアの2つのボタンで、リバーブが減衰していく時間的な長さ（ディケイタイム）を設定します。"-"+ボタンの上にディスプレイがあり、それを見ると8つのポジションがあります。"Min"と"Max"の間に1~6の数字があって全部で8段階となります。実際のディケイタイムは選択したプレートモデルによって変わります。"Modern"モデル (Modelセクターの3) でDecayがMinの場合、ディケイタイムは400ms程度の短さですが、他の2モデルの場合は850msになります。また、DecayをMaxにセットした場合のディケイタイムは最長で5秒になります。



Rev Plate-140のModelセクターとDecay Time  
コントロール

デフォルト設定では2の辺りにセットされますが、具体的な表示値はModelセクターの選択によって変わります (Modernプレートモデルを選択した場合、デフォルトのDecay Timeの表示値は約1.5になります)。

ハードウェアのプレートリバーブにもリバーブタイム (RT) を調節する機構があります：EMT 140の場合は、リバーブを発生させる金属プレートに多孔質の板を近づけることでRTを減少させる方式を採用しています。具体的には、多孔質板を金属プレートに近づけるとプレート上の振動波の拡散エネルギーが多孔質板に吸収されてリバーブの減衰時間が短くなります。

プラグインでは、多彩に使えるように極端な設定にもできるようにしていますので、是非色々な実験してみてください。そして、ベストのディケイタイムを見つけてください。

## 4.2.5. Blend

リバーブでよく使われるテクニックの1つに、リバーブ信号にドライ信号をミックスするということがあります。基本的には、リバーブをかける信号とは別のルートを残しておくという考え方です。これは一般的には、ミキサーとリバーブを SEND/リターン 端子で接続してリバーブを AUX チャンネルに立ち上げておくことで信号経路を2つにできます。リバーブがかかった信号はミキサーのリターンに返され、そこでドライ信号のメインミックスと AUX チャンネルからのリバーブをミックスできます。

上記のことを直接できるのが Blend パラメーターで、これは Arturia で追加したものです。Blend ノブはドライ/ウェットのバランスを調節することで、上記のような複雑なセッティングをすることなく、リバーブ音とドライ音のミックスが簡単に行なえます。

Blend ノブはデフォルト設定ではセンターポジション (値=0.500) を指しています。この状態でドライとウェットが半々の状態になります。ノブを左いっぱいに戻すとドライ音のみに、右いっぱいに戻すとリバーブ音のみに、その中間ではドライ音とリバーブ音がミックスされた状態になります。但し、ここでのドライ音は入力時のプリアンプ (Drive ノブ) を通った音になります。パラメーターの表示値は 0.00~1.00 で、0.00 でドライ 100%、1.00 でウェット (リバーブ) 100% になります。



Rev Plate-140のBlendと  
Widthノブ

## 4.2.6. Width (ステレオ幅の調節)

Widthノブはオリジナルのハードウェアにはなかったパラメーターです。このノブでステレオ間の広がりを調節します。ノブがセンターポジションの状態ではリバーブ音のステレオの広がりやドライ音よりもセンター寄りに狭くなります。ノブを右いっぱいに戻すと、ドライ音と同じステレオイメージになり、左いっぱいに戻した状態では、リバーブ音のステレオイメージはモノになります。Widthノブはリバーブ音のみ適用され、ドライ音に対しては何も変化させません。

デフォルト設定では、Widthノブは右いっぱいに戻した状態にセットされ、その場合のステレオイメージはドライ音と同じになります。パラメーターの値は0.00 (ノブが左いっぱいの状態、表示はMono) から1.00 (右いっぱいの状態、表示はStereo) までの範囲です。



ノブ: Withノブはステレオトラックに立ち上げた場合か、Mono-to-Stereoとして立ち上げた場合にのみ表示されません。プラグインをモノトラックに立ち上げた場合、このノブは表示されません。

## 4.3. アドバンスモード・コントロールパネル

アドバンスモードのコントロールパネルは、アッパーツールバーのアドバンスモードボタン (二重矢印) をクリックすると表示されます。このコントロールパネルには、リバーブにさらなるパワーとフレキシビリティをプラスできる追加機能が入っています。



Rev Plate-140アドバンスモード・コントロールパネル

### 4.3.1. Pre-Delay

プリディレイはその名の通り、リバーブ回路に入る前段階でディレイタイムを調節できるパラメーターです (プリディレイ自体はプリアンプとリバーブの間に入っています)。プリディレイは、ドライ音とリバーブ音の距離感を調節することで、リバーブ音の奥行き感や豊かさ、広がり感を調節できます。ディレイタイムは0.00ms (ディレイなし) から250msまでの範囲で調節できます。

デフォルト設定では、Pre-Delayは0.00ms (オフ) にセットされます。

### 4.3.2. HP Filter

ハイパスフィルターは、カットオフポイント以下の低い周波数帯域をカットするフィルターです。リバーブ音の低域成分が強すぎて他の帯域をマスキングしてしまい、出過ぎた"モヤモヤ感"を軽減するのに効果的です。

このフィルターはカットオフポイントを20Hz~700Hzの範囲で設定でき、フィルターのスロープは-12dB/Octです。なお、このフィルターはプリアンプ (Drive) の前段にあります。

### 4.3.3. Modulation

モジュレーションセクションはリバーブの前または後に置くことができます。このセクションの実体は薄めにかかるコーラスで、コーラス量を調節することでリバーブ音に深みを少し追加できます。コーラス量のデフォルト値は0.500で、0.00~1.00の範囲で調節できます。

モジュレーションは、Activeスイッチをクリックすることでオン/オフ切り替えができます。

### 4.3.4. Post Equalizer

イコライザー (EQ) は、複数のフィルターが集まったもので、それぞれの周波数バンドのゲインを調節することで音質を変えることができるものです。

Rev Plate-140のEQには2つのシェルフバンドがあり、1つは低域、もう1つは高域を担当します。2つのシェルフバンドはそれぞれのEQポイント外 (ハイシェルフは設定値以上の帯域、ローシェルフは設定値以下の帯域) をブースト/カットする仕組みになっています。このセクションでは、各バンドの周波数ポイントを設定し、それぞれのブースト/カット量を設定します。



Rev Plate-140のEQがオンの状態

低域用シェルフバンドのフィルタースロープは-12dB/Oct固定で、周波数は20Hz~2kHzの範囲で調節でき、ブースト/カット量は-24dB~+24dBの範囲で調節できます。デフォルト設定では、Gainノブはセンターポジションの0dB (ニュートラルポジション) に、Freqノブは左いっぱい (20Hz) にセットされます。

高域用シェルフバンドのフィルタースロープも-12dB/Oct固定で、周波数は200Hz~20kHzの範囲で調節でき、ブースト/カット量は-24dB~+24dBの範囲で調節できます。デフォルト設定では、Gainノブはセンターポジションの0dB (ニュートラル) に、Freqノブは右いっぱい (20kHz) にそれぞれセットされます。

EQセクション全体のオン/オフは、このセクションの中央にあるActiveスイッチで切り替えられます。オンの場合、スイッチの上のLEDが点灯します。デフォルト設定はオフです。

## 5. ユーザーインターフェイス

Rev Plate-140のユーザーインターフェイスには、メインコントロールパネル、アドバンスモード・コントロールパネルのほか、画面最上部と最下部にそれぞれツールバーがあります。

それでも非常にシンプルなユーザーインターフェイスです。このことは、どのArturia製品にも言えることですが、思いっきりクリエイティブに使える一方で、使い方はいたってシンプルかつ簡単にしたいというArturiaのポリシーからそのようになっています。

前のチャプターまででコントロールパネルをご紹介しました。ここからは、ツールバーを見ていきましょう。

### 5.1. アッパーツールバー

Rev Plate-140のGUI (グラフィカルユーザーインターフェイス) は、他のArturiaプラグインと同じく、画面最上部にツールバーがあり、左からArturiaロゴ、プラグイン名があり、続いてライブラリーボタン、プリセット名表示部があり、その右にはプリセット選択に使用する矢印ボタンがあります。

アッパーツールバー右端にはアドバンスモード・コントロールパネルの開閉に使用する二重矢印ボタンがあります。

二重矢印ボタンの右にあるドットは、アドバンスモードのコントロールパネルが開いている状態でも、そのパラメーターをデフォルト設定値以外の状態にしている場合に表示されます。



アッパーツールバー

Rev Plate-140のアッパーツールバーは、他のArturiaプラグインと同じく、様々な重要機能にアクセスできます。

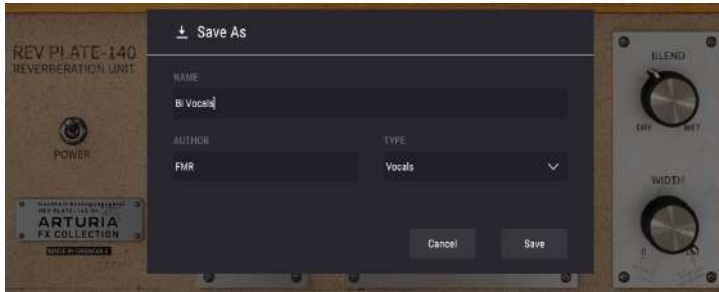
それらの重要機能は、画面左上のRev Plate-140ボタンをクリックすると表示されます。ここに入っている機能は、Arturiaプラグインの現行ラインナップで共通となっていますので、既にArturiaプラグインをお使いの方にはお馴染みのものです。

#### 5.1.1. Save Preset

このオプションは、プリセットをエディットして上書きセーブをする際に使用します。エディットしたプリセットの元の状態を残しておきたい場合は、次にご紹介しますSave Asオプションをご使用ください。

### 5.1.2. Save Preset As...

このオプションを選択すると、これからセーブするプリセットの情報を入力する画面が表示されます。プリセット名やプリセットの作者名、プリセットのタイプを選択できます。タイプは独自の名前を付けてオリジナルのタイプを作ることも可能です。これらの情報はプリセットブラウザが参照し、後でプリセットをサーチするときに便利です。



### 5.1.3. Import...

このコマンドでプリセット1つ分か、プリセットバンク1個分のプリセットファイルをインポート（読み込み）します。単体プリセットもバンクもファイルの拡張子は **.platex** です。

このコマンドを選択するとデフォルトのパス（フォルダ）を表示したファイルブラウザが表示されますが、プリセットファイルが入っているフォルダに変更できます。

### 5.1.4. Export Menu

プリセットのエクスポート（ファイル書き出し）には2タイプの方法があります：プリセット単体とバンクです。

- **Export Preset**：プリセット1個分のファイルを書き出します。他のユーザーにプリセット1個分のファイルをシェアしたい場合に便利です。書き出し時にデフォルトのファイル保存先を指定した画面が表示されますが、任意の保存先に変更できます。書き出したファイルは Import コマンドで読み込むことができます。
- **Export Bank**：プリセットが入ったバンク1個分のファイルを書き出します。他のユーザーとプリセットバンク単位でファイルをシェアしたい場合や、プリセットのバックアップに便利です。

### 5.1.5. Resize Window (リサイズウィンドウ)

Rev Plate-140の画面は50%~200%の範囲でリサイズ（縮小/拡大）ができます。ラップトップなど比較的小さなスクリーンの場合は、画面を縮小してディスプレイがプラグインに占拠されないようにできます。大きなスクリーンやセカンドモニターで作業される場合は、画面を拡大して見やすい状態で作業できます。各コントロール（ノブやスイッチ等）の動作は縮小/拡大率に関係なく同じですが、大幅に縮小表示した場合やHDモニターやそれ以上の高解像度のモニターをご使用の場合、表示が見づらくなることがあります。高解像度のモニターをご使用の場合は、拡大表示がおすすめです。

 画面の拡大/縮小は、Ctrl（またはCmd）キーを押しながら "+" キーで拡大、Ctrl（またはCmd）キーを押しながら "-" キーで縮小させることもできます。

## 5.1.6. Help

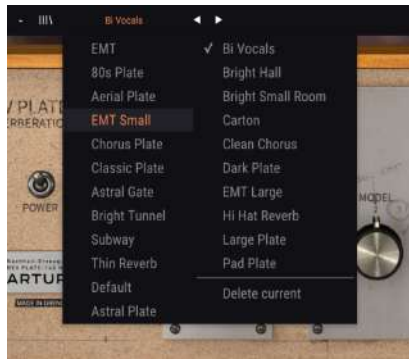
ヘルプセクションには、ユーザーマニュアル (今お読みのもので) と FAQ (よくある質問) へのダイレクトアクセスがあります。

## 5.1.7. プリセットの選択

ツールバーのライブラリーアイコン (||||) をクリックすると、[プリセットブラウザ \[p.22\]](#) が開きます。ツールバーにあるフィルターやネームフィールド、左右の矢印ボタンがプリセットの選択をアシストします。

プリセットの選択は、アッパーツールバーのプリセットネームフィールドをクリックすると行えます。クリックすると選択できる全プリセットがリスト表示されます。選択中のプリセットにはチェックマーク (✓) が付きます。プリセット名にマウスオーバーするとそれがハイライト表示になり、クリックすると選択されます。

別の方法として、プリセットフォワード/バックワードボタン (左右の矢印ボタン) を使ってプリセットを順番に切り替えることもできます。



## 5.2. アドバンスモードボタン (二重矢印)

二重矢印ボタンでアドバンスモードのコントロールパネルが開きます。アドバンスモードは、オリジナルのハードウェアにはなかった追加機能が入ったパネルです。

アドバンスモードのパネルが開くと、それまで下向きだった二重矢印ボタンが上向きに変わります。パネルを閉じると、また下向きに変わります。

アドバンスモードのパラメーターを使用した (エディットしたり、デフォルト設定とは違うセッティングにした) 状態でアドバンスモードのパネルを閉じると、二重矢印ボタン (この時は下向きです) のとなり DOT が表示され、アドバンスモードのパラメーターを使用していることをお知らせします。二重矢印ボタンをクリックしてアドバンスモードのパネルを開けば、パラメーターの状態をチェックできます。

アドバンスモードの各種パラメーターの詳細につきましては、[コントロールパネル \[p.11\]](#) のチャプターをご覧ください。



## 5.3. ローツールバー

画面上のパラメーターにマウスオーバーすると、ローツールバーの左側にそのパラメーター名と簡単な説明が表示されます。

またこの時、マウスオーバーしたパラメーターの脇に小さなポップアップ画面が表示され、その中にその時の設定値が表示されます。この表示はパラメーターの値を変更している時（パラメーターのエディット時）にも表示されます。パラメーターをクリックしなくてもその時の値をチェックでき、かつ、エディット時にはその値をモニターできますので便利です。



ローツールバー

ローツールバーの右側には小さなウィンドウやボタンがあります。これらにも非常に重要な役割がありますのでそれぞれ見ていきましょう。

### 5.3.1. Panic

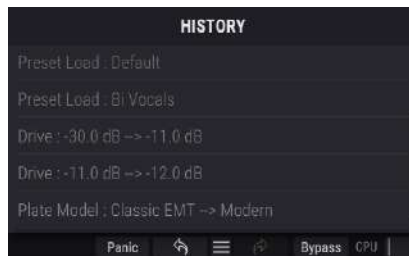
いわゆるパニックボタンです。例えば、リバーブの減衰が長すぎてそれを強制的に止めて長さを調整し直したい場合など、プラグインが予期せぬ動作をした時にこのボタンをクリックしてリバーブを強制的に停止させることができます。

### 5.3.2. Undo

左にカーブした矢印のボタンがアンドウです。直前に行ったエディットを取り消して元の状態に戻したい時に使用します。連続してクリックするたびにその前の状態に戻っていきます。

### 5.3.3. History

プラグインを立ち上げてからのパラメーターの変更（エディット）の履歴をリスト表示します。



Rev Plate-140のエディットの履歴

### 5.3.4. Redo

リドゥボタンは右にカーブした矢印のボタンです。リドゥはアンドウの逆で、アンドウで取り消したエディットを再実行します。このボタンを連続してクリックすると最新のアンドウから順にリドゥしていきます。

### 5.3.5. Bypass

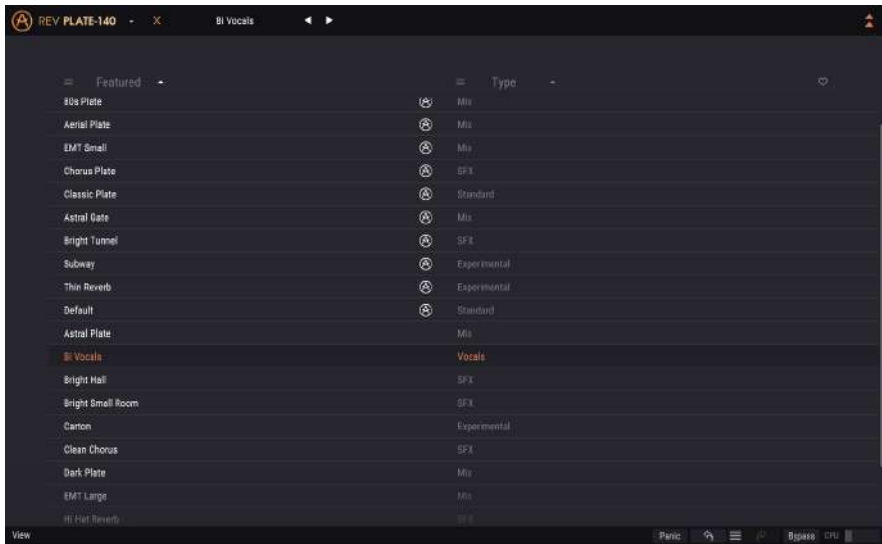
バイパスは必須機能ですね。バイパスをオンにするとRev Plate-140プラグインの動作が完全にオフになります。メインコントロールパネルにあるPowerスイッチでも同じことができます。

### 5.3.6. CPU meter

CPUメーターでRev Plate-140のCPU消費量をモニターできます。負荷がかかり過ぎるとパソコンの全体的なパフォーマンスが低下したり、音がブツ切れになるなどの影響が出ます。

## 5.4. プリセットブラウザ

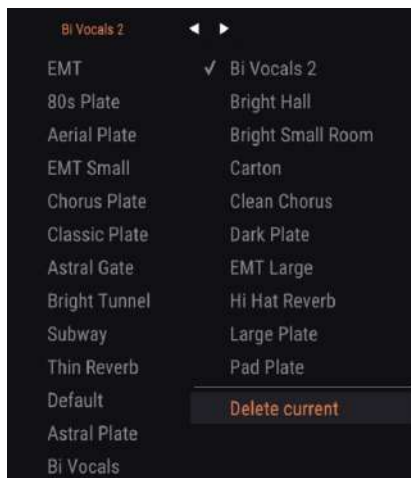
プリセットブラウザでは、プリセットのサーチやロード、管理が行えます。他のArturia製プラグインやソフトウェアインストールメント等と同じ構成で、シンプルで使いやすいものとなっています。アッパーツールバーのArturiaロゴ/プラグイン名の左にあるライブラリーアイコン (||||) をクリックすると、プリセットブラウザにアクセスできます。



ライブラリーアイコンをクリックすると、セーブ済みの全プリセット一覧が表示されます。表示されたリストは項目別に並べ替えることができ、プリセットを探す時に便利です。リストにはコラムが2つあり、1つ目はプリセット名順または"Featured"順に並べ替えができます。Featuredというのは、Arturiaでセレクトした重要と思われるプリセットを指します。2つ目はタイプ順または作成者順です。

並べ替えで選べる優先順位は1つだけで、コラムのタイトル部分をクリックして優先順位を変更できません。デフォルト設定ではType (タイプ) が選択されます。優先順位をDesigner (作成者) に変更すると、その順にリスト表示が変わり、2つ目のコラムには作成者名が並びます。

プリセットを削除したい場合は、最初にプリセットブラウザから削除したいプリセットを選択します。次に、プリセットリストの最上部にあるネームフィールドをクリックしてプリセットリストを開きます。そのリストの最下部にある "Delete current" を選択します。選択すると、削除しても良いかどうかを確認するポップアップ画面が開きます。



プリセットを削除しようとしているところ

## 5.5. パラメーターの微調整

通常、パラメーターのエディットはクリックしてマウスを上か下にドラッグして行います。パラメーターがスイッチ的な動作のものは、オンかオフに切り替わるだけです。

パラメーターの値を微調整したい場合は、Ctrl+ドラッグ (macOSはCmd+ドラッグ) します。あるいは、右クリック+ドラッグでも微調整ができます。この方法でエディットすると、パラメーターの値がゆっくりと変化し、欲しい値に正確に合わせやすくなります。

## 5.6. パラメーターのリセット

パラメーターをダブルクリックすると、そのパラメーターのデフォルト設定値に戻ります。Alt+クリック (macOSではOpt+クリック) でも同じことができます。

これでマニュアルは以上です。Rev Plate-140プラグインの全機能をご紹介します。私たちがこのプラグインを楽しんで開発したのと同じくらいに、このプラグインを楽しんでお使いいただき、そしてこのプラグインを使ったサウンドや音楽をお楽しみいただければ、と思っております。

## 6. ソフトウェア・ライセンス契約

ライセンス料（お客様が支払ったアートリア製品代金の一部）により、アートリア社はライセンサーとしてお客様（被ライセンサー）にソフトウェアのコピーを使用する非独占的な権利を付与いたします。

ソフトウェアのすべての知的所有権は、アートリア社（以下アートリア）に帰属します。アートリアは、本契約に示す契約の条件に従ってソフトウェアをコピー、ダウンロード、インストールをし、使用することを許諾します。

本製品は不正コピーからの保護を目的としプロダクト・アクティベーションを含みます。OEMソフトウェアの使用はレジストレーション完了後のみ可能となります。

インターネット接続は、アクティベーション・プロセスの間に必要となります。ソフトウェアのエンドユーザーによる使用の契約条件は下記の通りとなります。ソフトウェアをコンピューター上にインストールすることによってこれらの条件に同意したものとみなします。慎重に以下の各条項をお読みください。これらの条件を承認できない場合にはソフトウェアのインストールを行わないでください。この場合、本製品（すべての書類、ハードウェアを含む破損していないパッケージ）を、購入日から30日以内にご購入いただいた販売店へ返品して払い戻しを受けてください。

**1. ソフトウェアの所有権** お客様はソフトウェアが記録またはインストールされた媒体の所有権を有します。アートリアはディスクに記録されたソフトウェアならびに複製に伴って存在するいかなるメディア及び形式で記録されるソフトウェアのすべての所有権を有します。この許諾契約ではオリジナルのソフトウェアそのものを販売するものではありません。

**2. 譲渡の制限** お客様はソフトウェアを譲渡、レンタル、リース、転売、サブライセンス、貸与などの行為を、アートリア社への書面による許諾無しに行うことは出来ません。また、譲渡等によってソフトウェアを取得した場合も、この契約の条件と権限に従うことになります。本契約で指定され、制限された権限以外のソフトウェアの使用にかかる権利や興味を持たないものとします。アートリア社は、ソフトウェアの使用に関して全ての権利を与えていないものとします。

**3. ソフトウェアのアクティベーション** アートリア社は、ソフトウェアの違法コピーからソフトウェアを保護するためのライセンス・コントロールとしてOEMソフトウェアによる強制アクティベーションと強制レジストレーションを使用する場合があります。本契約の条項、条件に同意しない限りソフトウェアは動作しません。このような場合には、ソフトウェアを含む製品は、正当な理由があれば、購入後30日以内であれば返金される場合があります。本条項11に関連する主張は適用されません。

**4. 製品登録後のサポート、アップグレード、レジストレーション、アップデート** 製品登録後は、以下のサポート・アップグレード、アップデートを受けることができます。新バージョン発表後1年間は、新バージョンおよび前バージョンのみサポートを提供します。アートリア社は、サポート（ホットライン、ウェブでのフォーラムなど）の体制や方法をアップデート、アップグレードのためにいつでも変更し、部分的、または完全に改正することができます。製品登録は、アクティベーション・プロセス中、または後にインターネットを介していつでも行うことができます。このプロセスにおいて、上記の指定された目的のために個人データの保管、及び使用（氏名、住所、メール・アドレス、ライセンス・データなど）に同意するよう求められます。アートリア社は、サポートの目的、アップグレードの検証のために特定の代理店、またはこれらの従事する第三者にこれらのデータを転送する場合があります。

**5. 使用の制限** ソフトウェアは通常、数種類のファイルでソフトウェアの全機能が動作する構成になっています。ソフトウェアは単体で使用できる場合もあります。また、複数のファイル等で構成されている場合、必ずしもそのすべてを使用したりインストールしたりする必要はありません。お客様は、ソフトウェアおよびその付随物を何らかの方法で改ざんすることはできません。また、その結果として新たな製品とすることもできません。再配布や転売を目的としてソフトウェアそのものおよびその構成を改ざんすることはできません。

**6. 著作権** ソフトウェア及びマニュアル、パッケージなどの付随物には著作権があります。ソフトウェアの改ざん、統合、合併などを含む不正な複製と、付随物の複製は固く禁じます。このような不法複製がもたらす著作権侵害等のすべての責任は、お客様が負うものとします。

**7. アップグレードとアップデート** ソフトウェアのアップグレード、およびアップデートを行う場合、当該ソフトウェアの旧バージョンまたは下位バージョンの有効なライセンスを所有している必要があります。第三者にこのソフトウェアの前バージョンや下位バージョンを譲渡した場合、ソフトウェアのアップグレード、アップデートを行う権利を失効するものとします。アップグレードおよび最新版の取得は、ソフトウェアの新たな権利を授けるものではありません。前バージョンおよび下位バージョンの著作権は、最新版のインストールを行った時点で失効するものとします。

**8. 限定保証** アートリア社は通常の使用下において、購入日より30日間、ソフトウェアが記録されたディスクに瑕疵がないことを保証します。購入日については、領収書の日付をもって購入日の証明といたします。ソフトウェアのすべての黙示保証についても、購入日より30日間に制限されます。黙示の保証の存続期間に関する制限が認められない地域においては、上記の制限事項が適用されない場合があります。アートリア社は、すべてのプログラムおよび付随物が述べる内容について、いかなる場合も保証しません。プログラムの性能、品質によるすべての危険性はお客様のみが負担します。プログラムに瑕疵があると判明した場合、お客様が、すべてのサービス、修理または修正に要する全費用を負担します。

**9. 賠償** アートリア社が提供する補償はアートリア社の選択により (a) 購入代金の返金 (b) ディスクの交換のいずれかになります。お客様がこの補償を受けるためには、アートリア社にソフトウェア購入時の領収書をそえて商品を返却するものとします。この補償はソフトウェアの悪用、改ざん、誤用または事故に起因する場合には無効となります。交換されたソフトウェアの補償期間は、最初のソフトウェアの補償期間か30日間のどちらか長いほうになります。

**10. その他の保証の免責** 上記の保証はその他すべての保証に代わるもので、黙示の保証および商品性、特定の目的についての適合性を含み、これに限られません。アートリア社または販売代理店等の代表者またはスタッフによる、口頭もしくは書面による情報または助言の一切は、あらたな保証を行ったり、保証の範囲を広げるものではありません。

**11. 付随する損害賠償の制限** アートリア社は、この商品の使用または使用不可に起因する直接的および間接的な損害(業務の中断、損失、その他の商業的損害なども含む)について、アートリア社が当該損害を示唆していた場合においても、一切の責任を負いません。地域により、黙示保証期間の限定、間接的または付随的損害に対する責任の排除について認めていない場合があります、上記の限定保証が適用されない場合があります。本限定保証は、お客様に特別な法的権利を付与するものですが、地域によりその他の権利も行使することができます。